地　域　再　生　計　画

１　地域再生計画の名称

「ウェルカム　なすしおばら　選ばれしまちへ」

２　地域再生計画の作成主体の名称

栃木県、那須塩原市

３　地域再生計画の区域

那須塩原市の全域

４　地域再生計画の目標

（地域の現況）

那須塩原市は、栃木県の北部に位置し、首都東京から 150 ㎞圏にあって、地形的には山岳部が市の約 1/2 を占め、残りは平坦地で那須野が原の北西一帯を占めている。

市域は、592.82ｋ㎡と広範で、日光国立公園内の標高 1,900m級の山々と鮎で有名な清流那珂川や箒川（ほうきがわ）、広大な平地林など変化に富む豊かな自然環境と名湯として親しまれている塩原温泉や板室温泉などの多くの観光資源に恵まれている。

歴史としては、明治以降、未開の地であった那須野が原を那須疏水の建設や大規模な農場の造成によって開拓した際、全国各地から開拓者を受け入れた歴史があり、今なお移住者の受け入れに寛容な風土を持っている。

交通基盤としては、広域交通拠点となるＪＲ東北新幹線、ＪＲ東北本線の鉄道路線や東北縦貫自動車道、一般国道４号などの国土軸を形成する幹線交通が市を縦貫し、市内には、ＪＲ東北新幹線那須塩原駅、ＪＲ東北本線黒磯駅、西那須野駅や東北縦貫自動車道の西那須野塩原ＩＣ、黒磯板室ＩＣがあり交通基盤面で恵まれた地域特性を有している。

林業の盛んな那須塩原市の山間部に位置し、観光拠点の一つである板室温泉を有している高林地区の人口推移は、[下記（表－１）]のとおりで、平成１７年（2005 年）の 6,478 人が、平成２６年（2014 年）には、6,156 人に減少しており、その人口減の率は、全国▲0.5％、県全体▲1.8％と比較して▲5.0％と全国及び県全体を大きく上回っている。また、同じく観光拠点の塩原温泉を有している塩原地区の人口推移は、平成１７年の 8,660 人が、平成２６年には 7,736 人に減少しており、その人口減の率は▲１０.７％で、全国及

び県全体の減少をさらに大きく上回っている。

那須塩原市全体の人口は、平成 22 年の人口 117,812 人に対して平成 26 年では、117,106 人とそれまでの増加傾向から減少に転じている。将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計[下記（表－２）]によると平成 22 年（2010 年）の人口 117,812 人（指数 100）が、平成 52 年（2040 年）には、107,484 人（指数 91.2）まで減少するとされており、人口減少がさらに進行するものとされている。

人口増加につながる「定住促進」の基礎となる交流人口については、その指標となる那須塩原市の観光客入込者数[下記（表－３）]が、平成 21 年の 10,764,633 人をピークに減少に転じ、平成 23 年 3 月に発生した「東日本大震災」の影響も加わって平成 25 年では、9,789,918 人と落ち込んだままとなっている。増加の兆しはあるものの、いまだにピーク時の観光客入込者数を回復するまでには至っていない。

人口の推移　（表－１）

人口：(人)	平成 17 年 (2005 年)	平成 22 年 (2010 年)		平成 26 年 (2014 年)	
	人口	人口	増減率	人口	増減率
全国	127,767,994	128,057,352	0.2	127,090,000	▲ 0.5
栃木県	2,016,631	2,007,683	▲ 0.4	1,980,960	▲ 1.8
那須塩原市	115,032	117,812	2.4	117,106	1.8
高林地区	6,478	6,365	▲ 1.7	6,156	▲ 5.0
塩原地区	8,660	8,216	▲ 5.1	7,736	▲ 10.7

・平成１７年及び平成２２年の全国人口は、総務省「国勢調査(１０月１日現在人口)」データーより

・平成 26 年の全国人口は、総務省「各月現在人口(10 月 1 日現在人口概算値)」データーより

・栃木県人口及び那須塩原市人口は、栃木県「栃木県毎月人口調査報告書(10 月１日現在人口)」データーより

・那須塩原市の高林地区人口及び塩原地区人口は、那須塩原市「地区別人口(10 月１日現在人口)」データーより

・平成の合併により那須塩原市が誕生した平成 17 年を基準年とした。

那須塩原市の将来推計人口

（表－２）

項目	平成 22 年 (2010)	平成 32 年 (2020)	平成 42 年 (2030)	平成 52 年 (2040)
人口（人）	117,812	117,911	114,030	107,484
指数	100.0	100.1	96.8	91.2

※指数は 2010 年人口を 100 として算出

※国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口データより

[観光客入込者数の年別推移]

（表－３）

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
観光客入込者数(人)	9,338,703	10,764,633	10,359,246	8,118,334	9,518,292	9,789,918
指数	86.8	100	96.2	75.4	88.4	90.9

※指数は、最大の観光客入込者数となった平成２１年を基準（100）としている。

※東日本大震災発生は、平成２３年３月 11 日。

（取組みの背景）

人口は、「まち」の活力の源泉であり、人口減少と高齢化の進展は、社会保障費の増大による生産年齢人口への負担増加のほか、橋梁等インフラ長寿命化対策に係る維持の困難や地域コミュニティの崩壊を招く。人口減少と高齢化が急激に進んでいる那須塩原市の高林地区及び塩原地区については、既にそれらの問題が顕在化している。また、観光客の減少は、本市産業の大きな柱である観光産業の衰退を招き、観光拠点が立地する高林地区及び塩原地区の急激な人口減少とあいまって「まちの元気」を低下させる要因となっている。

その解決には働き盛りの世代を中心とした新たな人を那須塩原市に呼び込んで定住を促進し「人口が減らない那須塩原市」を目指す必要がある。そのためには、本市の特性である貴重な景観や緑豊かな自然環境、豊富な温泉などの観光資源、恵まれた交通基盤を最大限に活用し、 那須塩原市が「住みたいまち」、「住み続けたいまち」として人々から「選ばれるまち」になる必要がある。

那須塩原市は、今後の人口減少に強い危機感を持っている。今後の人口減少を最大の課題としてとらえており、それを見過ごすのではなく先手を打つ対策が必要と考えている。その取り組みとして、定住を促進するための基本計画として平成 26 年に「那須塩原市定住促進計画」を策定した。また、広域的に人口減少対策への取り組みを進めるため、那須塩原市が中心市となる「那須地域定住自立圏」を近隣市町である大田原市及び那須町並びに那珂川町と連携して平成25年に設

立した。那須塩原市は、それらの計画に基づいて定住を促進する各種の施策を積極的かつ総合的に展開しているところであり、道路整備や保全対策についてもその寄与が強く求められている。

（計画の目標）

人口減少と高齢化の進展に対処し地域の再生を図るため、市道・林道の一体的な整備と林道橋梁の点検・診断による保全対策を行うことにより、林道通行における安全性の向上や林道の振興と観光客増加による観光産業の振興を図り、「選ばれるまち」に必要な「まちの元気」を取り戻して定住を促進し、持続可能な活力ある那須塩原市の構築を図る。

（目標１）核となる定住エリアの那須塩原駅西土地区画整理事業地及び那須塩原駅北土地区画整理事業地の人口増加（人口 7%増）

・現在　1,880 人（平成 26 年度）→
　　1,940 人（平成 29 年度）→
・目標　2,010 人（平成 33 年度）

（目標２）観光客入込者数の増加（観光客入込者数 10%増）

・現在　979 万人（平成 25 年度）→
　　1,020 万人（平成 29 年度）→
・目標 1,077 万人（平成 33 年度）

（目標３）安全な林道利用の確保（林道危険箇所の解消）

・現在　17 箇所（平成 26 年度）→
　　7 箇所（平成 29 年度）→
・目標　0 箇所（平成 33 年度）

（目標４）森林整備の実施（間伐実施面積の増）

・現在　0ha（平成 26 年度）→
　　0ha（平成 29 年度）→
・目標　10ha（平成 33 年度）

（目標５）林道の老朽化対策の推進（保全対策推進率）

・現在　0%（平成 26 年度）→
　　0%（平成 29 年度）→
・目標　5%（平成３３年度）

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

那須塩原市は、ＪＲ東北新幹線那須塩原駅などの交通拠点へアクセスする市道の整備を重点的に進めてきたところであるが、まだまだ十分でなく幅員の狭い箇所や舗装状態の悪い箇所があり、本市の持つ優位な交通基盤を定住促進に十分生かし切れていない。また、交通拠点から離れ人口減少が進んでいる高林地区及び塩原地区と交通拠点を結ぶ市道にも舗装状態が悪い箇所があり、地域における安全で円滑な交通機能の低下と併せて、道路環境の悪化が定住を妨げ人口を減少させる要因の一つになっている。また、那須塩原市の観光地は、観光拠点である塩原温泉及び板室温泉が代表するように山岳地に多く立地するが、そのアクセス路となる市道及び林道の整備が遅れており、観光客増加の妨げになっている。特に林道については、山岳地を貫く道路のため落石危険箇所などがあり安全な林道利用に支障をきたしている。

このような課題を解決するため、本計画に基づき市内交通拠点へアクセスする「市道新南･下中野線」他３路線の新設及び拡幅改良や舗装が劣化した「市道黒磯唐杉線」他 11 路線の舗装修繕を行って、市域から交通拠点へのアクセス性を向上させる。林道においては、「林道木の俣巻川線」及び「林道沼代シダブ線」において落石防止工事などを実施し、林産物搬出及び間伐などの森林整備を促進させ、効率的かつ安定的な林業経営の確立によって、林家が多くまた人口減少が著しい高林地区の定住促進を図る。併せてレクリェーションなど森林資源の多目的な活用を促進する。さらに保全対策を行うことにより利用時の安全確保を図る。加えて、市道と林道との連携による一体的整備により道路ネットワークを強化して、沿線の観光資源と観光拠点である塩原温泉、板室温泉との回遊性を向上させ、観光客を増加し体験と交流の機会拡大を図ることにより、多くの人々に那須塩原市の良さと魅力を実感していただく。

これらの取り組みによって、ＪＲ東北新幹線を利用すると那須塩原駅から東京駅まで約 70 分と十分に首都圏への通勤圏内である交通特性及び豊かな自然環境や豊富な観光資源などの那須塩原市が持っているポテンシャルを最大限に発揮し、首都圏などから転入者を呼び込んで定住を促進する。

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金【A3001】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

[市道]
- 市道石林（いしばやし）・二つ室（ふたつむろ）線（市道認定　S59.12.26）
- 市道新南（しんなん）・下中野線（市道認定　H21.4.7）
- 市道島方芝中線（市道認定　S62.4.1）
- 市道下永田２７４号線（市道認定　S59.12.26）
- 市道黒磯唐杉線（市道認定　S62.4.1）
- 市道高林青木線（市道認定　S62.4.1）
- 市道疏水通り線（市道認定　S59.12.26）
- 市道福渡１号線（市道認定　S58.3.24）
- 市道上大貫（かみおおぬき）西那須野線（市道認定　S58.3.24）
- 市道石林中通り線（市道認定　S59.12.26）
- 市道穴沢油井線（市道認定　S62.4.1）
- 市道穴沢戸田線（市道認定　S62.4.1）
- 市道板室油井線（市道認定　S62.4.1）
- 市道太夫塚（たゆうづか）３７２号線（市道認定　S62.10.1）
- 市道宇都野野崎北線（市道認定　S58.3.24）
- 市道東三島横線（市道認定　S59.12.26）

[林道]
- 林道花取（はなとり）線
  （森林法による那珂川地域森林計画（平成 22 年 12 月策定）に路線を記載）
- 林道木の俣巻川線
  （森林法による那珂川地域森林計画（平成 22 年 12 月策定）に路線を記載）
- 林道沼代シダブ線
  （森林法による那珂川地域森林計画（平成 22 年 12 月策定）に路線を記載）

[林道の保全対策]
- 林道大蛇尾木綿畑線

[施設の種類]
- 市道
- 林道

[事業主体]
- 市道　那須塩原市
- 林道　那須塩原市

[事業区域]
- 那須塩原市

［事業期間］

- 市道　平成 27 年度～平成 33 年度
- 林道　平成 28 年度～平成 33 年度

［整備量及び事業費］

- 整備量　　市道　　17.9ｋｍ
  林道　　0.5ｋｍ
  林道の保全対策（点検診断・保全整備）20 箇所
- 事業費　　総事業費　4,677,000 千円
  （うち交付金 2,338,500 千円）
  市道　4,512,000 千円
  （うち交付金 2,256,000 千円）
  林道　　165,000 千円
  （うち交付金　　82,500 千円）
  うち林道の保全対策　　15,000 千円
  （うち交付金　　7,500 千円）

５－３　その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「ウェルカム　なすしおばら選ばれしまちへ」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

５－３－１　支援措置によらない独自の取組

⑴ 黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業（都市再構築戦略事業）

内　　容　黒磯駅周辺市街地における都市再生整備計画により黒磯駅東西口広場、（仮称）駅前図書館及びまちなか交流センターなどの整備を行い、街の魅力向上とにぎわいの再生及び快適な生活と滞在が可能な都市環境の形成を図る。（国土交通省支援事業）

実施主体　那須塩原市

実施期間　平成 26 年４月～平成 31 年３月

⑵ 那須塩原駅周辺地区の整備

内　　容　那須塩原駅東西口広場の再整備や西口前通りである東那須野大通り線の電線地中化と歩道整備及び地区内公園の整備などを行い、広域拠点地区であり、また核となる定住エリアの役割を持つ那須塩原駅周辺地区の拠点性の強化と良好な生活環境の確保及び利用者の利便性向上を図る。

実施主体　那須塩原市

実施期間　平成 29 年４月～平成 36 年３月

⑶ 新庁舎の建設

内　　容　広域拠点地区であり、また核となる定住エリアの役割を持つ那須塩原駅周辺に新庁舎を建設し、広域拠点地区の拠点性を強化するとともに市民の利便性向上を図る。（那須塩原市単独事業）

実施主体　那須塩原市

実施期間　平成 26 年４月～平成 35 年３月

⑷ 新幹線通勤助成事業

内　　容　那須塩原駅から新幹線を使用して通勤する市民に対して定期代の一部を助成することにより、市外から転入者を呼び込んで定住の促進を図る。（那須塩原市単独事業）

実施主体　那須塩原市

実施期間　平成 26 年４月～平成 32 年３月

⑸ 地域バス運行事業

内　　容　交通拠点の鉄道駅に接続する那須塩原市地域バス「ゆーバス」や「ゆータク（旧予約ワゴンバス）」の運行により、市民の市内外へのアクセス向上及び市外からの来訪者の移動の支援を図る。

実施主体　那須塩原市

実施期間　平成 26 年４月～平成 34 年３月

６　計画期間

平成 27 年度～平成 33 年度

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項

７－１　目標の達成状況に係る評価の手法

４に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に那須塩原市が必要な調査を行って状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、栃木県及び那須塩原市のデータを用い、中間評価、事後評価の際には、基礎データからの集計及び必要に応じた調査等を行って評価を行う。

７－２　目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

項　目	平成 26 年度 （基準年度）	平成 29 年度 （中間年度）	最終目標
目標１ 核となる定住エリア人口の増（那須塩原駅土地区画整理地区）	1,880 人	1,940 人	2,010 人
目標２ 観光客入込者数の増	979 万人 (平成 25 年度)	1,020 万人	1,077 万人
目標３ 林道危険箇所の解消	17 箇所	７箇所	０箇所
目標４ 間伐実施面積の増	0ha	0ha	１0ha
目標５ 保全対策推進率	０％	０％	５％

（指標とする数値の収集方法）

項　目	収集方法
核となる定住エリア人口の増	那須塩原市の住民登録データより
観光客入込者数の増	栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査データより
林道危険箇所の解消	栃木県の毎年の補助事業完了実績より
間伐実施面積の増	栃木県の毎年の補助事業完了実績より
保全対策推進率	那須塩原市農林整備課職員で独自調査

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

１．事業の進捗状況

２．総合的な評価や今後の方針

７－３　目標の達成状況に係る公表の手法

４に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、那須塩原市のホームページなどにより公表する。

（1）区域の図面

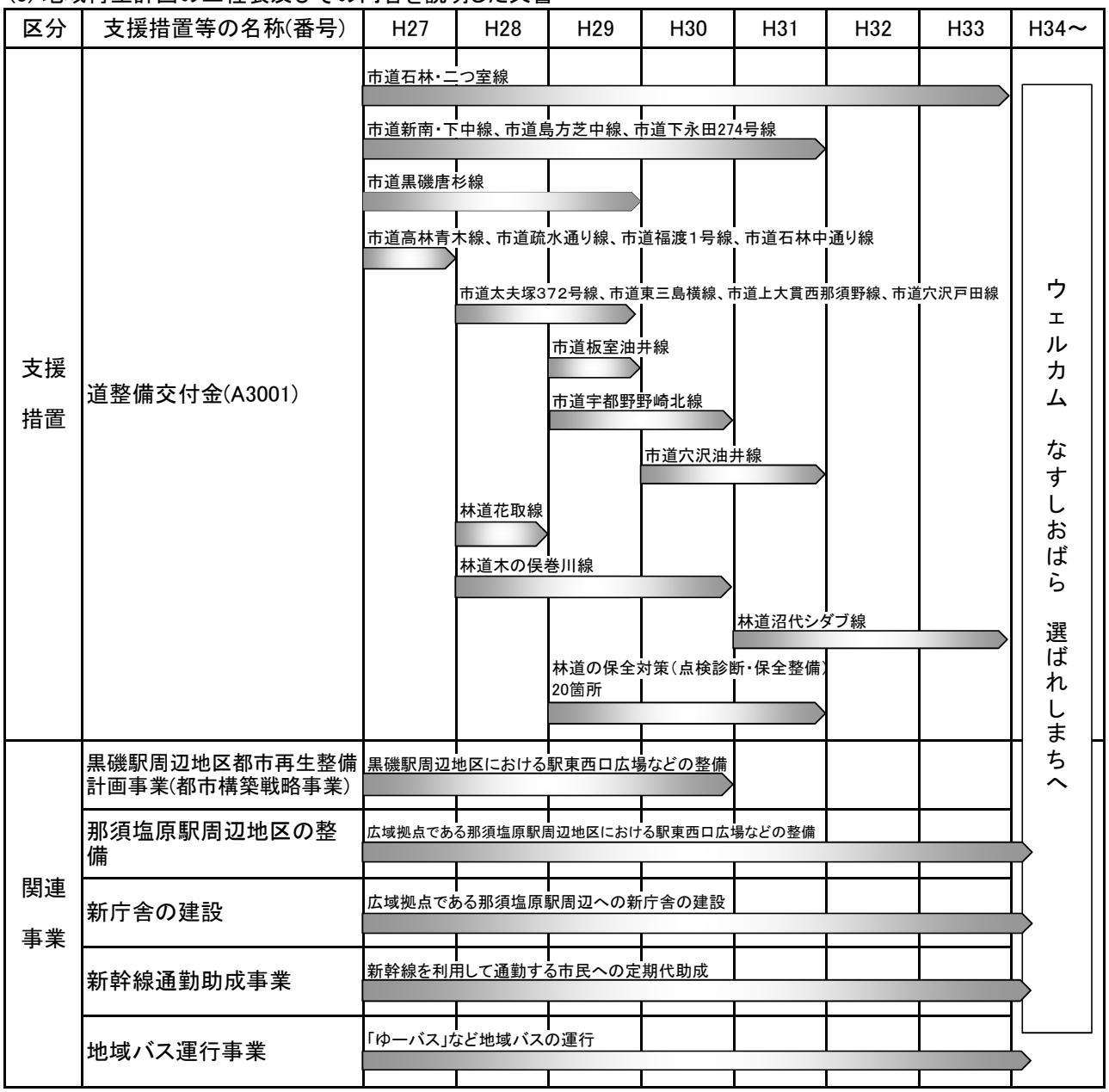
地図A　計画の区域に含まれる行政区画を表示した図面

地域再生計画の名称:「ウェルカム　なすしおばら　選ばれしまちへ」

縮尺1:250,000

那須塩原市地域再生計画

(3) 地域再生計画の工程表及びその内容を説明した文書



（工程表の説明）

〇定住を促進し「人口が減らない那須塩原市」を目指すため、平成27～33年度にかけて交通拠点へのアクセス向上及び道路ネットワーク強化などに寄与する次の道路整備を市道及び林道連携して実施する。

「市道石林・二つ室線」、「市道下永田274号線」を拡幅改良し、西那須野駅南側の地区から西那須野駅へのアクセス向上を図る。

「市道新南・下中野線」、「市道島方芝中線」を新設及び拡幅改良し、西那須野駅地区から那須塩原駅へのアクセス向上を図る。

「市道黒磯唐杉線」の劣化した舗装を修繕し、黒磯地区から那須塩原駅及び黒磯板室ICへのアクセス向上を図る。

「市道疏水通り線」、「市道石林中通り線」、「市道太夫塚372号線」、「市道東三島横線」の劣化した舗装を修繕し、西那須野駅周辺地区から西那須野駅及び西那須野塩原ICへのアクセス向上を図る。

「市道高林青木線」、「市道穴沢油井線」、「市道穴沢戸田線」、「市道板室油井線」の劣化した舗装を修繕し、高林地区から黒磯駅へのアクセス向上を図る。併せて「林道木の俣巻川線」整備との連携により市道及び林道の道路ネットワークを強化し、板室温泉及び周辺観光施設への回遊性向上を図る。

「市道上大貫西那須野線」、「市道宇都野野崎北線」、「市道福渡1号線」の劣化した舗装を修繕し、塩原地区から西那須野駅及び西那須野塩原ICへのアクセス向上を図る。併せて「林道沼代シダブ線」整備との連携により市道及び林道の道路ネットワークを強化し、塩原温泉及び周辺観光施設への回遊性向上を図る。

「林道木の俣巻川線」、「林道沼代シタブ線」の落石危険箇所防災工事などを実施し、効率的な林道網の構築と林道の保全対策により、安全な林道利用の確保及び森林を利用したレクリェーション等への多目的利用の促進を図る。併せて「市道高林青木線」などの関連する市道整備との連携により市道及び林道の道路ネットワークを強化し、塩原温泉などの観光拠点及び周辺観光施設への回遊性向上を図る。

〇上記の施策をより効果的にするため、平成27～33年度にかけて定住促進に寄与する次の関連事業を道路整備と十分な連携のもとに併せて進める。

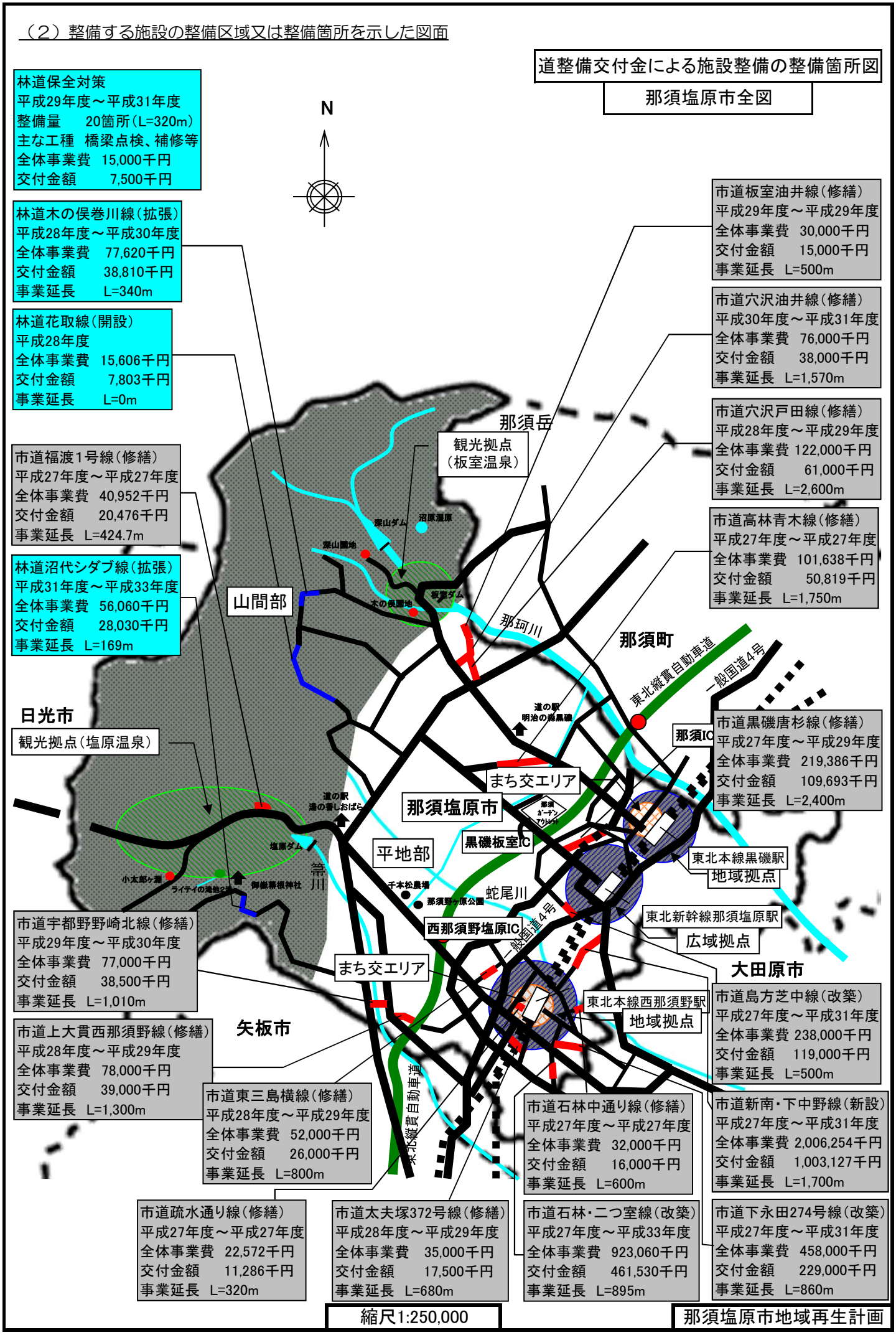
・「黒磯周辺地区都市再生整備計画事業」、「那須塩原駅周辺地区の整備」、「新庁舎の建設」

整備道路のアクセス先のとなる交通拠点地区の那須塩原駅周辺地区及び黒磯駅周辺地区で、駅前広場などの施設整備及び市庁舎建設を道路整備と連携して進め、アクセス先の拠点性及び機能性、利便性の向上を図ることにより、道路整備効果を相乗的に増大させ本地域再生計画の目的である定住促進を図る。

・「新幹線通勤助成事業」

首都圏などの勤務者を那須塩原市に呼び込んで定住を促進するため、JR駅へのアクセス道路の整備とともに新幹線利用の通勤者への支援策として新幹線通勤費用の助成に取り組む。

・「地域バス運行事業」

交通拠点のJR駅と観光拠点の塩原温泉、板室温泉及び周辺観光施設を結ぶ「地域バス運行事業」の取り組みにより、観光拠点へのアクセス道路整備と連携し、市民及び来訪者の移動の支援を行って定住促進を図る。

（２）整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面